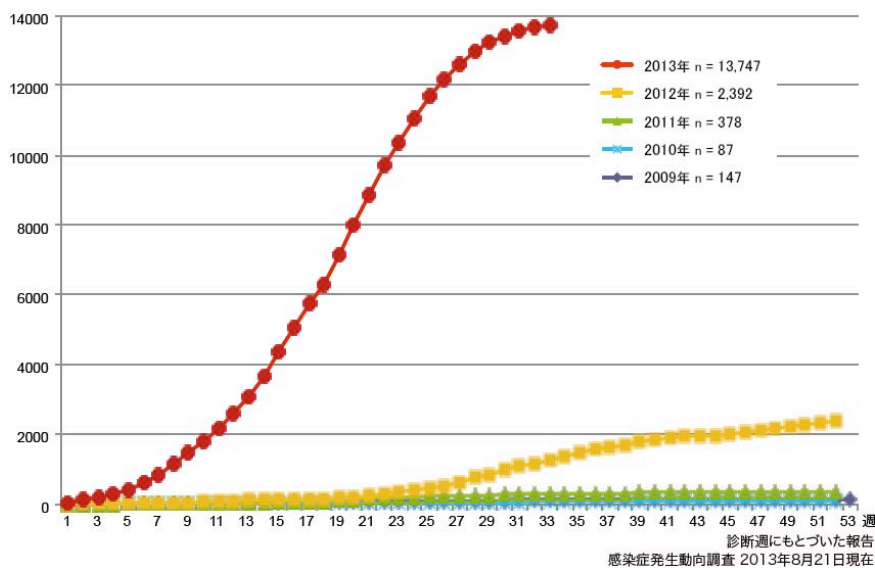


昨年から成人男性を中心に風疹の流行が続いています。今年1月から8月末までに、昨年の5.7倍増の1万3747人が報告されています。国や自治体は引き続き、成人男女への予防接種を呼びかけています。大人の任意接種者数は、今年5月と6月それぞれ1カ月で例年の年間接種数を超え、8月末にもワクチンが足りなくなる懸念がありました。しかし6月以降患者数の減少傾向と増産体制に入っていることなどから、全国的なワクチン不足は回避できるとの見通しが発表されています。しかし、今年希望者にワクチンが行き渡ったとしても、抵抗力を持たない成人が残ります。来年以降の再流行を防ぐため、是非とも風疹の抗体を持っているかどうか調べる抗体検査を受けましょう。

また8月末に厚労省は、妊娠希望女性やそのパートナーを対象に、抗体検査の費用の全額補助を、来年度から全国に広げる方針を固めたそうです。費用は国と自治体で半額ずつ負担されます。



先天性風疹症候群

風疹は、妊婦が感染すると、胎児に難聴、心疾患、白内障や緑内障などの障害を招く「先天性風疹症候群」CRSの恐れがあります。この可能性は、風疹にかかった時期により違いがあり、妊娠12週までがもっとも高いとされています。

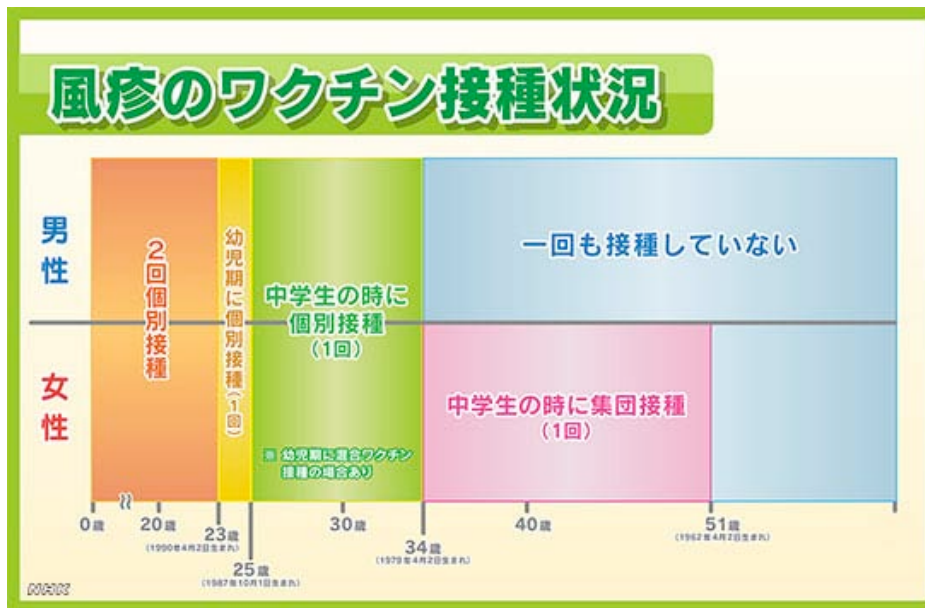
妊婦の夫・子供およびその同居家族、妊娠希望者・妊娠する可能性の高い女性・産褥早期の女性、妊婦と同じ職場の人のうち抗体価が十分でない人は、任意での予防接種を受けることがのぞまれます。

流行の要因は？

風疹の予防接種は、他の感染症とは違い、先天性風疹症候群を防ぐ観点から長年女子のみを対象にしてきました。

1977年から1994年まで予防接種対象者が女子中学生に限られており、その後変更を経て、2006年6月から麻疹(はしか)と風疹の混合ワクチンの接種が1歳児と小学校入学前1年間(5~6歳)の男女を対象に行われるようになりました。

このため34歳以上の男性には、定期接種の機会がなかったわけです。20~30歳代の男女も接種率が低く、抵抗力を持たない人が多いです。今年の流行は、こうした層を中心に広がっています。



NHKHP より抜粋

予防

個人でできる有効な予防法は、風疹の予防接種を受けることで免疫を獲得することです。また、予防接種を受けても、8%は免疫ができにくいこともわかっています。接種後も抗体検査を受けることがのぞまれます

過去に風疹にかかったと以为っていても、検査診断で風疹と判明していない場合は、他の疾病であった可能性があります。

ただし、妊娠中の方は予防接種を受けることができません。また風疹の予防接種を受けた方は、2 カ月間避妊する必要があります。

風疹にかかってしまったら、特別な治療方法はなく、症状を軽減するための対症療法しかありません。周囲の人にうつさないように咳エチケットなど配慮することが重要です。